

決算説明資料

(2023年2月期)

2023年4月5日



- 1 2023年2月期の決算概要
- 2 トピック紹介
- 3 2024年2月期の業績予想

1

2023年2月期の決算概要

1. 業績サマリ



- 売上及び売上総利益は増加したものの、販売管理費の増加により営業利益は前期比342百万円（16%）減少。
- 特別利益の計上（1,229百万円）により、親会社株主に帰属する当期純利益は前期比で大幅増加。

(単位：百万円)	2021年2月期	2022年2月期			2023年2月期			
	金額	金額	構成比	前期比 増減率	金額	構成比	前期比	
							増減額	増減率
売上高	23,087	23,580	100.0%	+2.1%	26,505	100.0%	+2,924	+12.4%
売上総利益	4,446	5,337	22.6%	+20.0%	5,753	21.7%	+415	+7.8%
販売費及び一般管理費	2,554	3,191	13.5%	+25.0%	3,949	14.9%	+757	+23.7%
営業利益	1,892	2,145	9.1%	+13.4%	1,803	6.8%	▲ 342	▲16.0%
経常利益	2,103	2,421	10.3%	+15.2%	2,219	8.4%	▲ 202	▲8.3%
親会社株主に帰属する 当期純利益	1,620	1,736	7.4%	+7.2%	2,665	10.1%	+928	+53.5%
1株当たり当期純利益	61.69円	66.07円	—	+7.1%	101.21円	—	+35.13円	+53.2%
設備投資額	8,200	2,342	—	▲71.4%	722	—	▲ 1,620	▲69.2%
減価償却費	388	573	—	+47.7%	848	—	+274	+47.9%
ROE	6.1%	6.1%	—	—	8.5%	—	—	—

2. 売上の内訳（地域別）



- 中国、アジア、欧州、北米向けの売上が増加。
- 日本、中南米、アフリカ向けの売上が減少。日本向けの売上は3期連続で減少。

(単位：百万円)	2021年2月期		2022年2月期			2023年2月期			
	金額	前期比 増減率	金額	構成比	前期比 増減率	金額	構成比	前期比	
								増減額	増減率
日本	7,143	▲36.5%	6,103	25.9%	▲14.6%	5,421	20.5%	▲681	▲11.2%
中国	7,324	▲11.0%	7,452	31.6%	+1.7%	9,549	36.0%	+2,097	+28.1%
アジア	3,853	▲24.7%	5,415	23.0%	+40.5%	6,519	24.6%	+1,103	+20.4%
欧州	3,076	+486.6%	1,931	8.2%	▲37.2%	2,621	9.9%	+690	+35.7%
北米	358	▲52.2%	388	1.6%	+8.4%	1,145	4.3%	+757	+195.0%
中南米	1,330	▲23.3%	1,957	8.3%	+47.1%	1,216	4.6%	▲741	▲37.9%
アフリカ	—	—	332	1.4%	—	30	0.1%	▲302	▲90.8%
合計	23,087	▲16.4%	23,580	100.0%	+2.1%	26,505	100.0%	+2,924	+12.4%

3. 売上の内訳（製品の種別別）

- 大人用紙おむつ製造機械が全体の売上増加を牽引し、売上構成比は30%を上回る。
- 小児用紙おむつ製造機械は売上減少により、売上構成比が40%を下回る。

(単位：百万円)	2021年2月期		2022年2月期			2023年2月期			
	金額	前期比 増減率	金額	構成比	前期比 増減率	金額	構成比	前期比	
								増減額	増減率
生理用ナプキン製造機械	3,019	▲14.7%	3,754	15.9%	+24.3%	3,825	14.4%	+70	+1.9%
小児用紙おむつ製造機械	9,567	▲41.7%	11,118	47.1%	+16.2%	10,227	38.6%	▲890	▲8.0%
大人用紙おむつ製造機械	5,766	+38.5%	4,568	19.4%	▲20.8%	8,541	32.2%	+3,973	+87.0%
その他機械	2,250	+74.1%	1,615	6.9%	▲28.2%	1,291	4.9%	▲323	▲20.1%
部品	2,021	▲2.7%	2,038	8.6%	+0.8%	2,206	8.3%	+168	+8.3%
その他	461	+276.4%	486	2.1%	+5.6%	413	1.6%	▲73	▲15.0%
合計	23,087	▲16.4%	23,580	100.0%	+2.1%	26,505	100.0%	+2,924	+12.4%

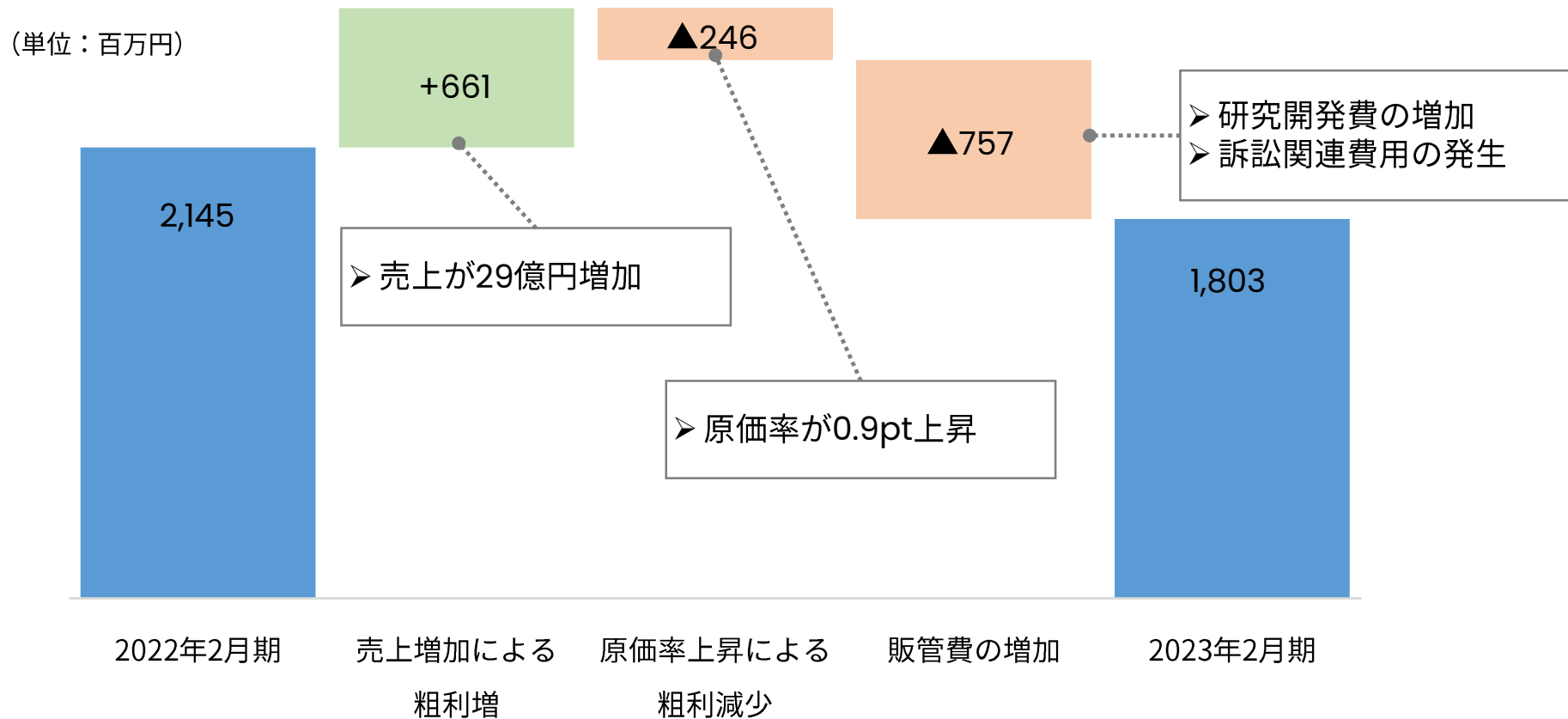
4. 受注動向（製品の種類別）

受注高	2021年2月期		2022年2月期			2023年2月期			
	金額	前期比 増減率	金額	構成比	前期比 増減率	金額	構成比	前期比	
								増減額	増減率
(単位：百万円)									
生理用ナプキン製造機械	3,191	▲17.8%	3,653	14.6%	+14.5%	2,642	11.1%	▲1,010	▲27.7%
小児用紙おむつ製造機械	10,833	+95.3%	11,862	47.6%	+9.5%	4,830	20.4%	▲7,032	▲59.3%
大人用紙おむつ製造機械	7,740	+140.0%	3,299	13.2%	▲57.4%	12,369	52.2%	+9,070	+274.9%
その他機械	2,817	+233.4%	3,597	14.4%	+27.7%	1,250	5.3%	▲2,346	▲65.2%
部品	2,021	▲2.7%	2,038	8.2%	+0.8%	2,206	9.3%	+168	+8.3%
その他	461	+276.5%	486	2.0%	+5.6%	413	1.7%	▲73	▲15.0%
合計	27,066	+72.4%	24,937	100.0%	▲7.9%	23,712	100.0%	▲1,224	▲4.9%

受注残高	2021年2月期		2022年2月期			2023年2月期			
	金額	前期比 増減率	金額	構成比	前期比 増減率	金額	構成比	前期比	
								増減額	増減率
(単位：百万円)									
生理用ナプキン製造機械	3,316	+5.5%	3,214	16.6%	▲3.1%	2,032	13.9%	▲1,182	▲36.8%
小児用紙おむつ製造機械	8,237	+18.2%	8,982	46.5%	+9.0%	2,111	14.4%	▲6,870	▲76.5%
大人用紙おむつ製造機械	5,245	+60.3%	3,976	20.6%	▲24.2%	9,330	63.7%	+5,354	+134.7%
その他機械	1,167	+94.5%	3,149	16.3%	+169.8%	1,175	8.0%	▲1,974	▲62.7%
合計	17,966	+28.4%	19,323	100.0%	+7.5%	14,650	100.0%	▲4,672	▲24.2%

5. 営業利益の増減要因

- 原価率が上昇したものの、増収効果により売上総利益は415百万円の増加。
- 新コンセプト機の開発に伴う研究開発費、瑞光上海における民事訴訟費用等で販売管理費が増加し、営業利益は342百万円の減少。



6. 貸借対照表

(単位：百万円)	2022年2月期		2023年2月期			
	金額	構成比	金額	構成比	前期比増減額	
流動資産	31,140	62.0%	31,180	62.8%	+40	<ul style="list-style-type: none"> ➢ 主に工事進行基準の売上増に伴う売上債権増加
現金及び預金	13,852	27.6%	14,030	28.3%	+178	
売上債権	7,464	14.9%	10,844	21.8%	+3,380	<ul style="list-style-type: none"> ➢ 仕掛品の減少：▲3,295
棚卸資産	8,441	16.8%	5,137	10.3%	▲3,303	
その他流動資産	1,383	2.8%	1,167	2.4%	▲215	<ul style="list-style-type: none"> ➢ 建物及び構築物の増加：+339 ➢ 建設仮勘定の減少：▲238 ➢ 土地の減少：▲198
固定資産	19,072	38.0%	18,462	37.2%	▲610	
有形固定資産	16,246	32.4%	16,096	32.4%	▲149	
無形固定資産	816	1.6%	717	1.4%	▲99	
投資その他の資産	2,009	4.0%	1,648	3.3%	▲360	<ul style="list-style-type: none"> ➢ 投資有価証券の減少：▲259
資産合計	50,213	100.0%	49,643	100.0%	▲570	<ul style="list-style-type: none"> ➢ 当期純利益：+2,665 ➢ 剰余金の配当金：▲476 ➢ 為替換算調整勘定：+751
負債	20,157	40.1%	16,554	33.3%	▲3,602	
仕入債務	4,410	8.8%	4,771	9.6%	+361	
有利子負債	8,016	16.0%	7,767	15.6%	▲248	
契約負債・前受金	4,630	9.2%	2,009	4.0%	▲2,621	
その他負債	3,099	6.2%	2,005	4.0%	▲1,094	<p>2023年2月期末 DEレシオ：0.23倍 自己資本比率：66.5%</p>
純資産	30,055	59.9%	33,088	66.7%	+3,032	
負債純資産合計	50,213	100.0%	49,643	100.0%	▲570	

7. キャッシュ・フロー

- 契約負債（前受金）の減少や法人税等の支払いの影響で、営業CFは388百万円の収入に留まる。
- 設備投資支出は前期比で1,620百万円減少したが、定期預金の増加により投資CFは前期と同水準の支出。
- 現金及び現金同等物の残高は、前期比で1,522百万円減少。

(単位：百万円)	2022年2月期	2023年2月期	増減額
営業活動によるキャッシュ・フロー	2,253	388	▲ 1,865
投資活動によるキャッシュ・フロー	▲ 1,422	▲ 1,372	50
財務活動によるキャッシュ・フロー	2,475	▲ 822	▲ 3,298
現金及び現金同等物の期末残高	9,401	7,879	▲ 1,522
フリー・キャッシュ・フロー	831	▲ 984	▲ 1,815

当期のキャッシュ・フローの主な内訳

営業キャッシュ・フロー

- 税金等調整前当期純利益：3,440
- 売上債権の増加：▲2,412
- 棚卸資産の減少：2,174
- 契約負債の減少：▲1,760
- 法人税等の支払い：▲1,170

投資キャッシュ・フロー

- 定期預金の増加：▲1,485
- 有形固定資産の取得：▲690
- 有形固定資産の売却：376
- 投資有価証券の売却：403

財務キャッシュ・フロー

- 長期借入金の返済：▲250
- 配当金の支払い：▲478

2

トピック紹介

■モジュールタイプの衛生用品製造機「ZMS」誕生

- ZUIKO MODULAR SYSTEM (ZMS) 衛生用品製造機を開発しました。
- ZMSはひとつのラインで各製造工程ごとにモジュール化されており、モジュールを交換することで、製品仕様をより柔軟に短期間で変更することができます。
- また、現在完成した子ども用パンツ型おむつのZMS機では、パルプなどの材料の削減と不織布などの効率的な使用によるコスト削減を実現しました。
- さらに、モーターの集約化により機械の高い性能品質と生産速度を維持しながらも当社従来機と比べて消費電力の大幅削減を実現しました。

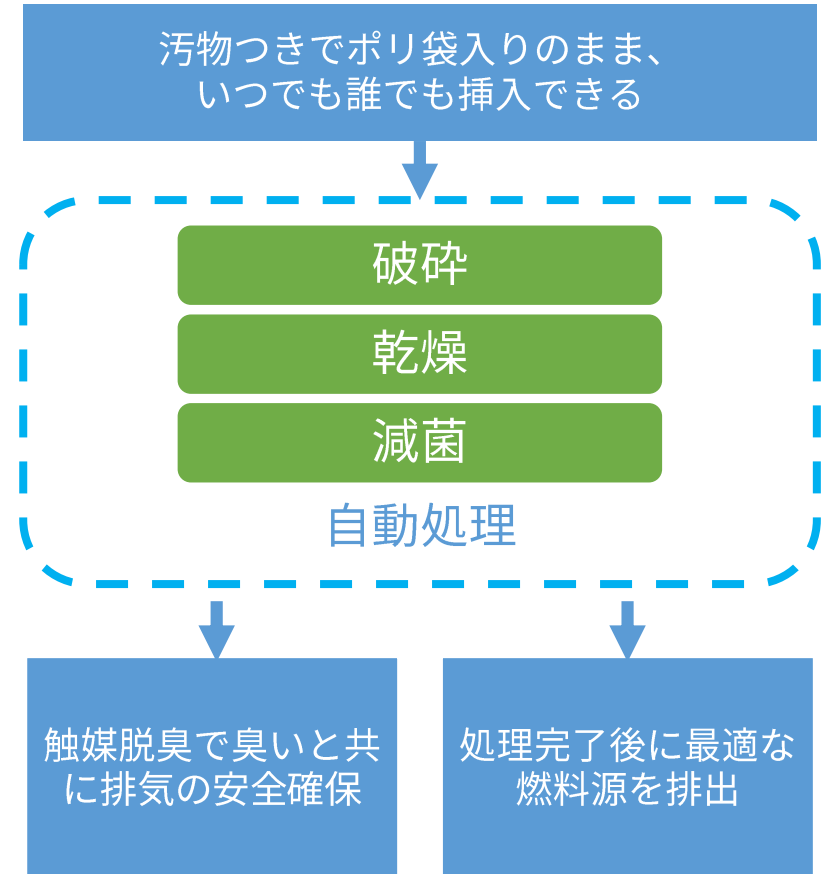
2023年4月にスイスで開催される
INDEX23（世界最大級の不織布展示会）にて
ZMSを紹介します！



■ 使用済み紙おむつ燃料化装置の実証実験をスタート

- 当社では、使用済み紙おむつを廃棄物からRPF（固形燃料）に変換する使用済み紙おむつ燃料化装置を展開しております。
- 紙おむつの排出量は世界中で年々増加しており、廃棄処理費用の経済的影響や環境負荷の観点から課題となっています。
- 使用済み紙おむつを廃棄物として焼却処理する場合と比較すると、CO2排出量を削減することができます。
- さらなる品質・性能向上にむけた実証実験をスタートしました。

 使用済み紙おむつ燃料化装置



排水処理プロセスを伴わない点が強み

■ 部品加工の受託業務を開始

- 当社の衛生用品製造機械に使われる高品質の精密金属部品の加工技術を活かして、金属加工の委託業務を開始しました。

加工部門の専用ウェブサイトはこちら

⇒<https://www.zuiko.co.jp/tsuruno-factory/>



■ 太陽光発電システムが本格稼働

- 本社新工場の建物屋上に太陽光発電システムを設置し、2023年2月より本格稼働しました。
- パネル発電容量合計735kW、年間約776,105kWhの発電により約316トンのCO2排出量削減を見込んでいます。
- 新工場の再エネ比率25%を目指してエネルギーコスト削減の取り組みを強化するとともに、環境に配慮したモノづくりを加速させて、SDGsの実現に向けて貢献してまいります。



3

2024年2月期の業績予想

1. 業績予想

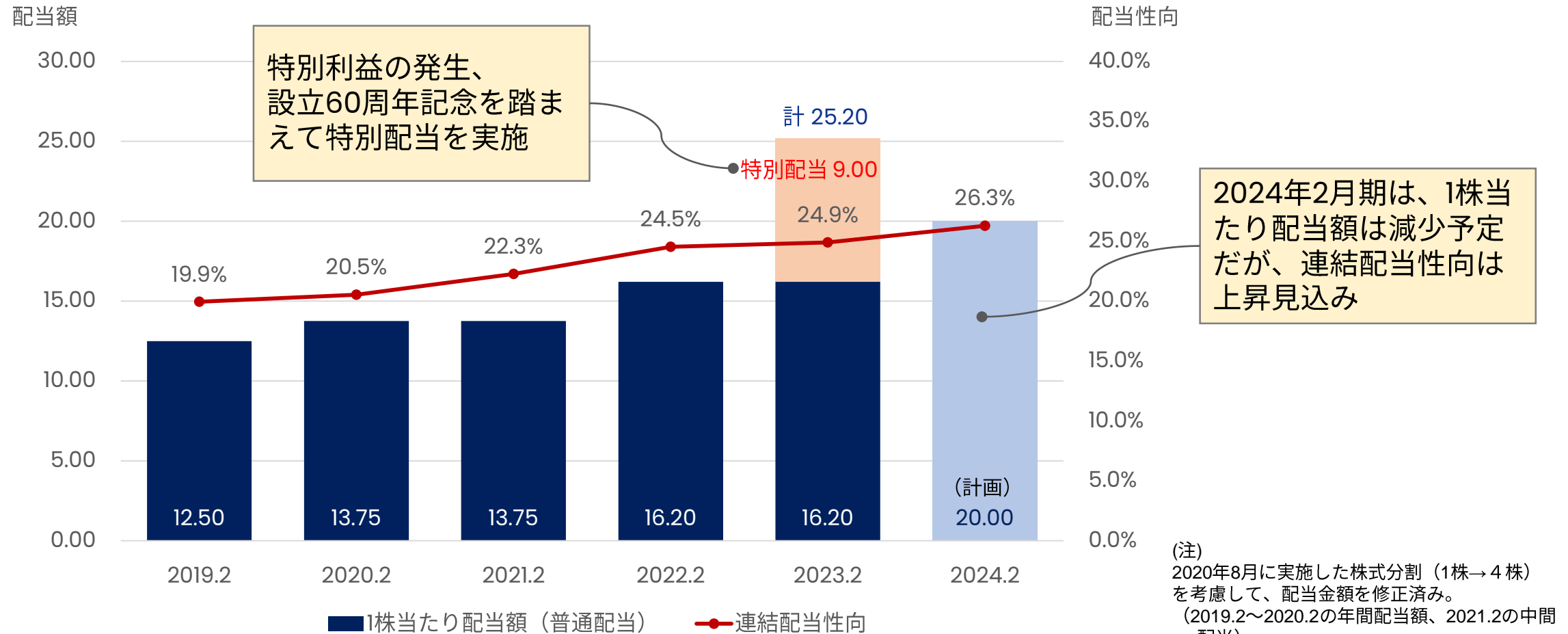


- 売上の増加、原価率の低減、販売管理費の減少により営業利益は増加を見込む。
- 2023年2月期に発生した特別利益が翌期はなくなることから、親会社株主に帰属する当期純利益は前期比で減少の見込み。

(単位：百万円)	2023年2月期実績			2024年2月期予想			
	金額	売上比	前期比増減率	金額	売上比	前期比増減率	
売上高	26,505	100.0%	+12.4%	28,000	100.0%	+5.6%	北米、南米で売上増加の見通し
売上総利益	5,753	21.7%	+7.8%	6,496	23.2%	+12.91%	瑞光及び瑞光上海での原価低減活動
販売費及び一般管理費	3,949	14.9%	+23.7%	3,696	13.2%	▲6.4%	前期の研究開発費増加の反動減
営業利益	1,803	6.8%	▲16.0%	2,800	10.0%	+55.3%	
経常利益	2,219	8.4%	▲8.4%	2,830	10.1%	+27.5%	
親会社株主に帰属する当期純利益	2,665	10.1%	+53.5%	2,000	7.1%	▲25.0%	前期は特別利益が発生 ・ 旧工場の売却 ・ 中国での民事訴訟による和解金 etc.

2. 配当計画

- 連結配当性向30%を目標に、安定的かつ継続的な成長を目指す。
- 2023年2月期より、配当に加えて株主優待も開始。





IRに関するお問い合わせ先

株式会社瑞光 経営戦略部

電話：072-648-2215

e-mail：ir-contractus@zuiko.co.jp

本資料に掲載している将来予測に関する情報は、当社が現時点で合理的と判断する一定の前提に基づいています。そのため、実際の結果と大きく異なったり、予告なしに変更される可能性があります。